

おすすめの本

中学生・高校生のみなさんへ



2015年10月発行

発行：枚方市立中央図書館

編集：図書館児童サービス委員会

〒573-1159 枚方市車塚 2-1-1

電話 050-7105-8121 FAX072-851-0962

*このリストは2014年に新聞等で紹介された本のなかから20冊を選んだものです。

クラスメイツ (前期・後期)

森 絵都／著 偕成社 F-モリ

北見第二中学1年A組24人、一人ひとりを主人公にした24の連作短編集。泣いても笑っても一年間は同じ教室で過ごさなければならぬクラスメイツ24人。入学時のぎこちない関係に始まり、学校生活で起こるさまざまな出来事に、それぞれ違った個性や感じ方を持った24人が反発し合ったり、気遣ったりしながら、結束を固めていく一年間を描く。24人のなかに自分に似た生徒が見つかるかもしれない。



憲法読本 第4版

杉原 泰雄／著 岩波書店 (岩波ジュニア新書)

323

そもそも憲法とは何か、民衆はどのように王権から国民主権を獲得し、基本的人権を享受することができたのか。西洋思想史から日本国憲法の成り立ち、憲法改正の動きまでを詳細に解説している。憲法とは幸福の追求に欠かせないもので、真の主権者になるには政治に関心を持つことが必要だとわかる。他に平易に読める本として、日野原重明著『十代のきみたちへ—ぜひ読んでほしい憲法の本』(富山房インターナショナル)。



グリーン・グリーン

あさの あつこ／著 徳間書店 **Fーアサ**

生まれも育ちも都会の翠川真緑（みどりかわみどり）のあだ名はグリーン・グリーン。落ち込んでいた時に食べたお米の美味しさに感動し、都会から遠く離れた喜多川農林高校の国語教師になった。生徒たちと収穫祭や花の販売実習を経験したり、畜産科の生意気な豚とケンカしたりしながら、気弱だった真緑はたくましい教師になっていく。



ABC！曙第二中学校放送部

市川 朔久子／著 講談社 **Fーイチ**

みさとと機材オタクの古場（こば）だけになった放送部。新任顧問の提案で部員募集のためにお昼の放送を始める。なぞの転入生、真野葉月（まのはづき）が元放送部の実力者らしいと聞き、みさとは思い切って声をかける。葉月はコンクールに向けて部員の本格的な指導を始める。ところがエントリー直前に担任教師が理不尽な原稿修正を要求してきた。



どろぼうのどろぼん

斉藤 倫／著 福音館書店 **Fーサイ**

「どろぼん」は、誰にも必要とされない「もの」達を、その悲痛な声を聞く度に盗み出してやった。ねじ、ジューサー・ミキサー、リュック、大きな絵画、車、指輪。どれも人から必要とされない「もの」だったので「どろぼん」は捕まらない。ところが、その不思議な泥棒「どろぼん」が捕まってしまった。刑事「ぼく」の取調べで「どろぼん」の半生が明らかになる。



シンドローム

佐藤 哲也／著 福音館書店 **Fーサト**

高校生の「ぼく」が通う学校の近くに火球が飛来した。「ぼく」は気になる同級生、久保田葉子や友人の平岩らと火球の正体について推測を重ねる。研究者たちの調査の結果、火球はただの隕石ではなく、謎は深まっていく。そして突然学校が地面に沈み、未知の生物が姿を現した。



ターンオーバー

堂場 瞬一／著 角川春樹事務所 **Fートウ**

ターンオーバーとは攻守交替を意味する。肩の故障を隠して出場する高校球児「連投」、アメフトの試合で後輩の成長を見守る「インターセプト」、スランプに陥った槍投げのベテラン選手「失投」、駅伝からマラソンに転向して苦しいレースを走る「ペースダウン」、怪我ばかりで出場の機会がないラグビー選手「クラッシャー」、プロ野球シーズン終盤、先発はベテランか新人か、決めかねる監督に翻弄される「右と左」。一流のアスリートたちのプライドと苦悩を描いた短編集。



なりたて中学生 初級編

ひこ 田中／著 講談社 **Fーヒコ**

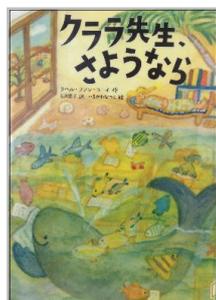
成田鉄男（なりたてつお）は6年生の時、隣の学区に引っ越しをしたために、親友の菱田や小谷と一緒に土矢（どや）中学校ではなく、友達ゼロの瀬谷（せや）中学校に行くことになった。目立たないように心がけていた鉄男だが、こともあろうに、宿敵の南谷（なんや）小学校に通っていた後藤や、制服の採寸で出会って気恥ずかしい思いをした杏里と同じクラスになってしまう。



クララ先生、さようなら

ラヘル・ファン・コイ／作 石川 素子／訳
いちかわ なつこ／絵 徳間書店 **N-コイ**

ぼくたちの大好きな担任のクララ先生が、もうすぐ病気で死んでしまう。「どうしようもない現実なのよ」と言いつつ、先生は残された日々をぼくたちと楽しく過ごしたいと提案する。ぼくたち生徒は先生のために最高のプレゼントを贈ろうと決めた。でも、それは周囲の大人たちがぜったい大反対しそうなものだった。



ルーシー変奏曲

サラ・ザール／著 西本 かおる／訳
小学館 **N-サル**

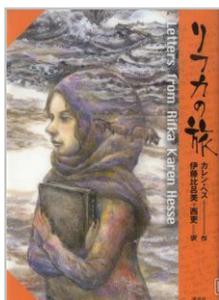
16歳のルーシーは、ピアニストとして将来を期待され、厳格な環境のもとで育てられた。自分の意思は全く尊重されず、コンクールの直前まで、大好きな祖母が危篤であることを知らされなかった。ピアノを弾くために大切なものを犠牲にしていると感じたルーシーは、コンクール会場を抜け出す。



リフカの旅

カレン・ヘス／作 伊藤 比呂美、西 更／訳
理論社 **N-ヘス**

1919年リフカとその家族はユダヤ人迫害から逃れるためロシア領ウクライナから命がけで脱出してアメリカを目指す旅に出た。国境を越えてワルシャワまでたどりつくが、旅の途中で皮膚感染症にかかったリフカはアメリカ行きの船に乗れず、ただひとり、見知らぬ国ベルギーに取り残される。



魔法の泉への道

リンダ・スー・パーク／著 金 利光／訳
あすなろ書房 **N-ハク**

1985年スーダン南部、裕福な11歳の少年サルヴァは内戦が勃発して家族とはぐれる。数百万の人々が殺害されて混乱を極めるなかで、清潔な水がないために多くの人が命を落としていく。サルヴァは幸運にも篤志家の養子となり、アメリカで高等教育を受け、故郷のために2009年井戸を掘るプロジェクトを立ち上げる。



サマセット四姉妹の大冒険

レスリー・M・M・ブルーム／著 尾高 薫／訳
中島 梨絵／絵 ほるぷ出版 **N-フル**

ニューヨークに住むコーネリアは、隣に引っ越してきた作家のヴァージニアが語る、謎と興奮に満ちたサマセット家の四姉妹の冒険に夢中になった。有名人である母の娘としてではなく、1人の人間として接してくれるヴァージニアに、コーネリアは孤独な心を開いていくのだった。



ブロード街の12日間

デボラ・ホブキンソン／作 千葉 茂樹／訳
あすなろ書房 **N-ホフ**

1854年の夏の終わり、ロンドンの下町ブロード街を「青い恐怖」とよばれる伝染病コレラが襲う。次々と倒れていく人々を目の当たりにした13歳の少年イールは、医師のジョン・スノウ博士の助手としてコレラの感染原因の究明に奔走する。着実に真実に近づいていくイールだが、彼の身には別の危険が潜んでいた。



中東から世界が見える

～イラク戦争から「アラブの春へ」～

酒井 啓子／著 岩波書店 (岩波ジュニア新書)

319

「アラブの春」とは、2010年から2011年にかけて中東地域で起きた、平和的な民衆運動のことである。2003年のイラク戦争のときのようにアメリカなどの大国が軍事力で独裁政権を倒さなくても、民衆の結集した力で平和的に民主化を実現できることを見せつけた、まさに「革命」であった。ところが、その後、中東地域は軍事クーデターやテロで混迷を極めている。日本とも関係の深い中東を中東の視点で説き明かす。



路地の教室 部落差別を考える

上原 善弘／著 筑摩書房

(ちくまプリマー新書 209) 361

「被差別部落」や「同和地区」をあえて「路地」と呼び、一から差別について考察している。自らも「路地」出身者である著者は、日本各地の路地に足を運び、そこに住む人々に差別の実情を聞き取りしている。「今でも差別があるのか」「路地がなくなれば差別されないのでは」といった疑問に丁寧に答え、「路地」への差別はあらゆる差別に通じ、すべての人にとって差別はひとつではないと訴える。



新しい宇宙のひみつQ&A

的川 泰宣／著 朝日新聞出版 440

宇宙のひみつをQ&A形式で7章に分けて中学生にもわかりやすく解説している。無重力ではどのようなになるのか、巨大隕石がなぜ落ちてくるのか、火星で生物は生きられるのかなどといった素朴な疑問から、宇宙の始まりの証拠や地球に似た星が見つかったことなど、最新の情報まで網羅している。



ザ・ママの研究 増補

信田 さよ子／著 イースト・プレス 367

母親(ママ)との逃げ場のない関係に思い悩む女の子たちにむけて書かれている。臨床心理士の著者が、多くのカウンセリングをもとに、母親を7つのタイプに分け、母親との付き合い方の傾向と対策を教えてくれる。



鉄は魔法つかい

命と地球をはぐくむ「鉄」物語 660

畠山 重篤／著 スギヤマ カナヨ／絵 小学館

著者は「森は海の生物に必要な鉄を作る」と提唱して、川の上流に木を植える運動を気仙沼で始めて23年。様々な専門家との出会いや実証実験を通して、鉄の働きや自然のしくみを解説する。東北地方太平洋沖地震の大津波で家業のカキ養殖が被災したが、森・川・海のつながりと「鉄」の魔法によって再開できると語る。



小さなかがやき 911

長倉 洋海／写真 谷川 俊太郎／詩 偕成社

エルサルバドル、アフガニスタン、コソボなどの紛争地や少数民族の子どもたちの写真集。日本よりはるかに物質的に恵まれない様子だが、目を輝かせた子どもたちの表情は崇高さえある。谷川俊太郎の詩は、命の尊厳をうたいあげるとともに、子どもたちがうかがい知れない強い力に押しつぶされていく苦しみを訴えている。

